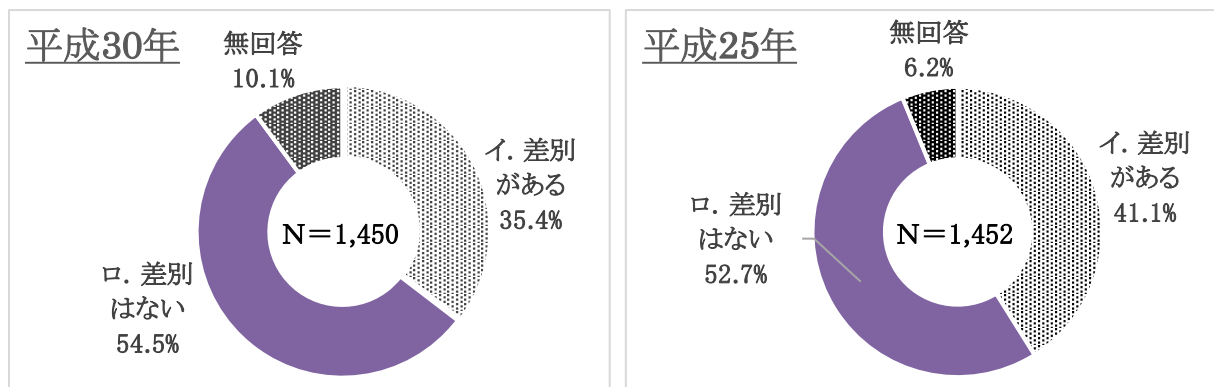


## (5) 部落差別等の同和問題

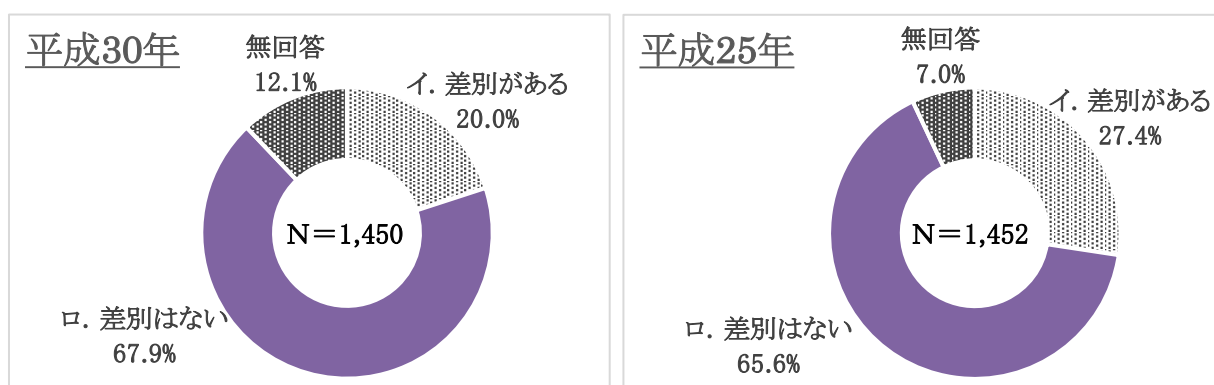
問3-6 部落差別等の同和問題に関し、現在、どのような差別があると思いますか。あるいは、差別はないと思いますか。それぞれの項目ごとに記入してください。(○は1つ)

### 1. 近所のつきあい



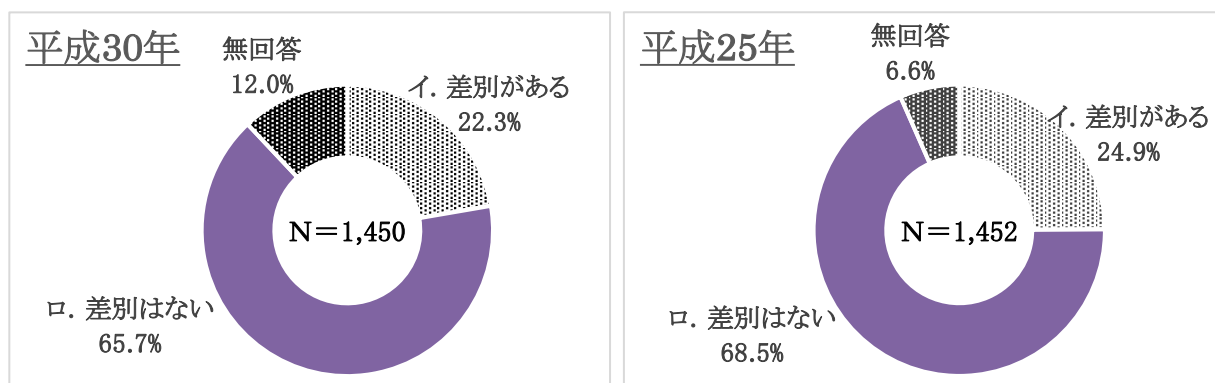
「1. 近所のつきあい」について、「イ. 差別がある」が 35.4%、「ロ. 差別はない」が 54.5%であった。前回調査との比較では、「イ. 差別がある」が 5.7pt 減少し、「ロ. 差別はない」が 1.8pt 増加した。

### 2. 仕事上のつきあい



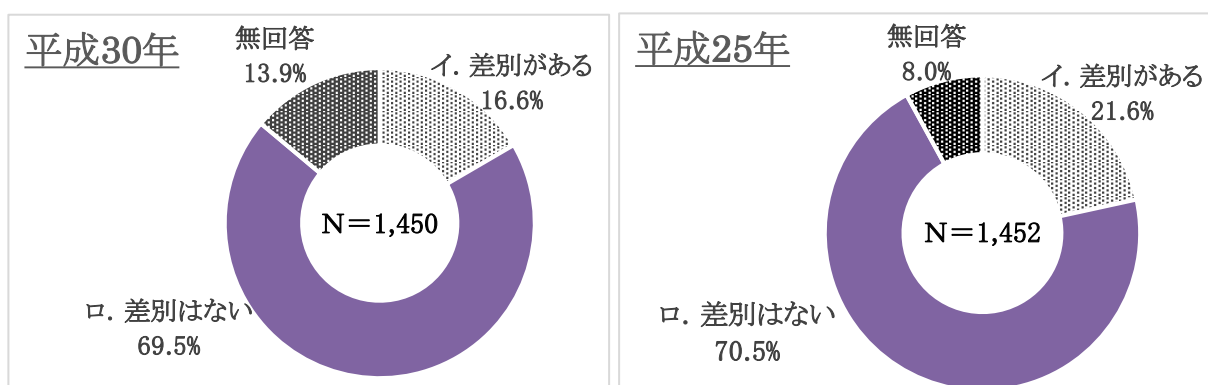
「2. 仕事上のつきあい」について、「イ. 差別がある」が 20.0%、「ロ. 差別はない」が 67.9%であった。前回調査との比較では、「イ. 差別がある」が 7.4pt 減少し、「ロ. 差別はない」が 2.3pt 増加した。

### 3. 友人・知人とのつきあい



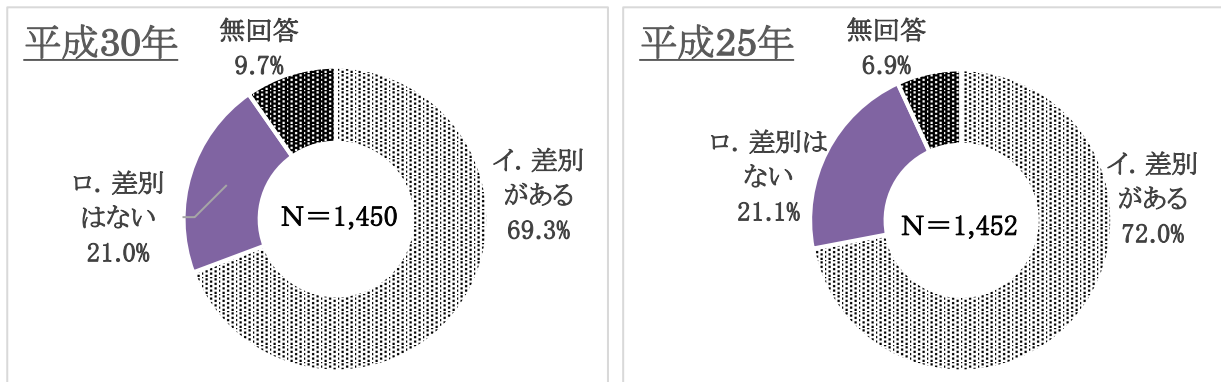
「3. 友人・知人とのつきあい」について、「イ. 差別がある」が 22.3%、「ロ. 差別はない」が 65.7%であった。前回調査との比較では、「イ. 差別がある」が 2.6pt 減少し、「ロ. 差別はない」が 2.8pt 減少した。

### 4. 学校生活の中で



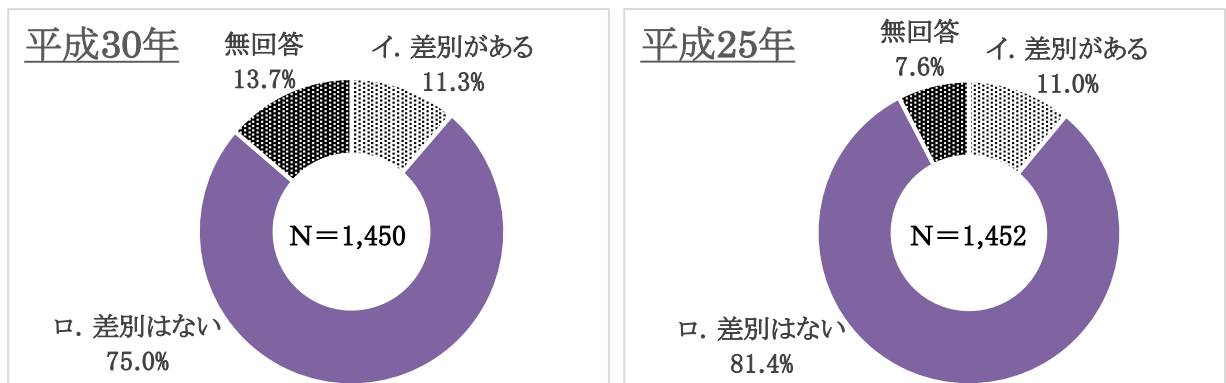
「4. 学校生活の中で」について、「イ. 差別がある」が 16.6%、「ロ. 差別はない」が 69.5%であった。前回調査との比較では、「イ. 差別がある」が 5.0pt 減少し、「ロ. 差別はない」が 1.0pt 減少した。

## 5. 結婚に際して



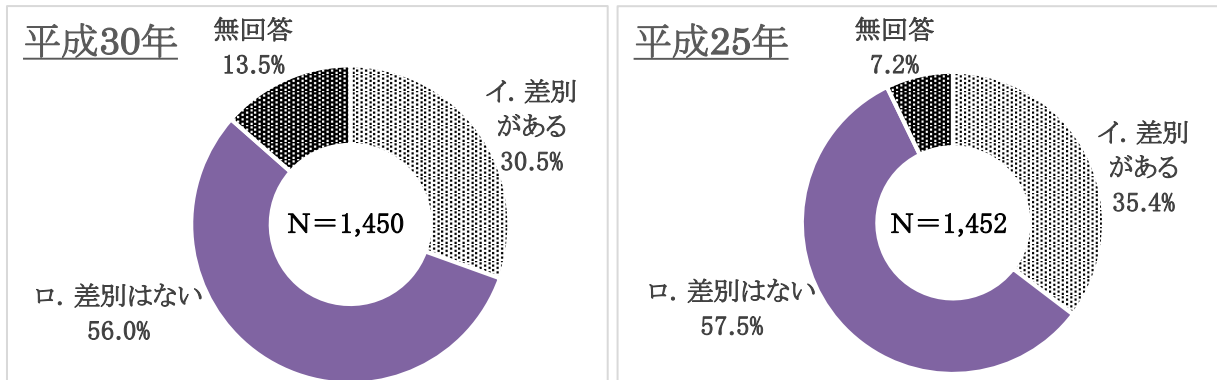
「5. 結婚に際して」について、「イ. 差別がある」が 69.3%、「ロ. 差別はない」が 21.0%であった。前回調査との比較では、「イ. 差別がある」が 2.7pt 減少し、「ロ. 差別はない」が 0.1pt 減少した。他の項目と比較した場合、「イ. 差別がある」と回答した人の割合は最も高く、「イ. 差別がある」が「ロ. 差別はない」の割合を上回ったのは「5. 結婚に際して」だけであった。

## 6. 進学に際して



「6. 進学に際して」について、「イ. 差別がある」が 11.3%、「ロ. 差別はない」が 75.0%であった。前回調査との比較では、「イ. 差別がある」が 0.3pt 増加し、「ロ. 差別はない」が 6.4pt 減少した。他の項目と比較した場合、「イ. 差別がある」と回答した人の割合は最も低かった。

## 7. 就職に際して

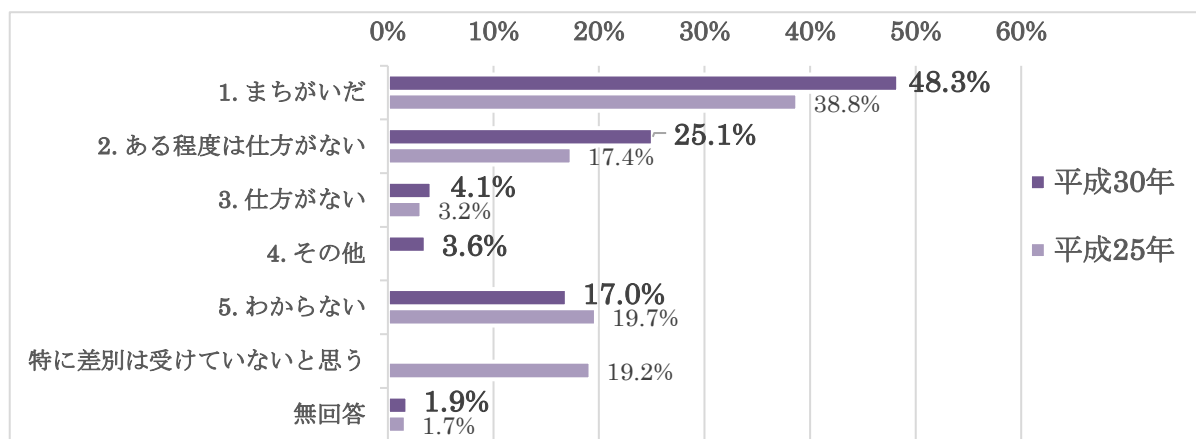


「7. 就職に際して」について、「イ. 差別がある」が30.5%、「ロ. 差別はない」が56.0%であった。前回調査との比較では、「イ. 差別がある」が4.9pt減少し、「ロ. 差別はない」が1.5pt減少した。

問 3-7 部落差別等の同和問題に関し、差別をすることに対して、あなたはどう思いますか。(〇は1つ)

回答者数 (N=1,450)

回答項目	合計 (人)	割合	
		今回	前回
1. まちがいだ	701	48.3%	38.8%
2. ある程度は仕方がない	364	25.1%	17.4%
3. 仕方がない	60	4.1%	3.2%
4. その他	52	3.6%	-
5. わからない	246	17.0%	19.7%
特に差別は受けていないと思う	-	-	19.2%
無回答	27	1.9%	1.7%

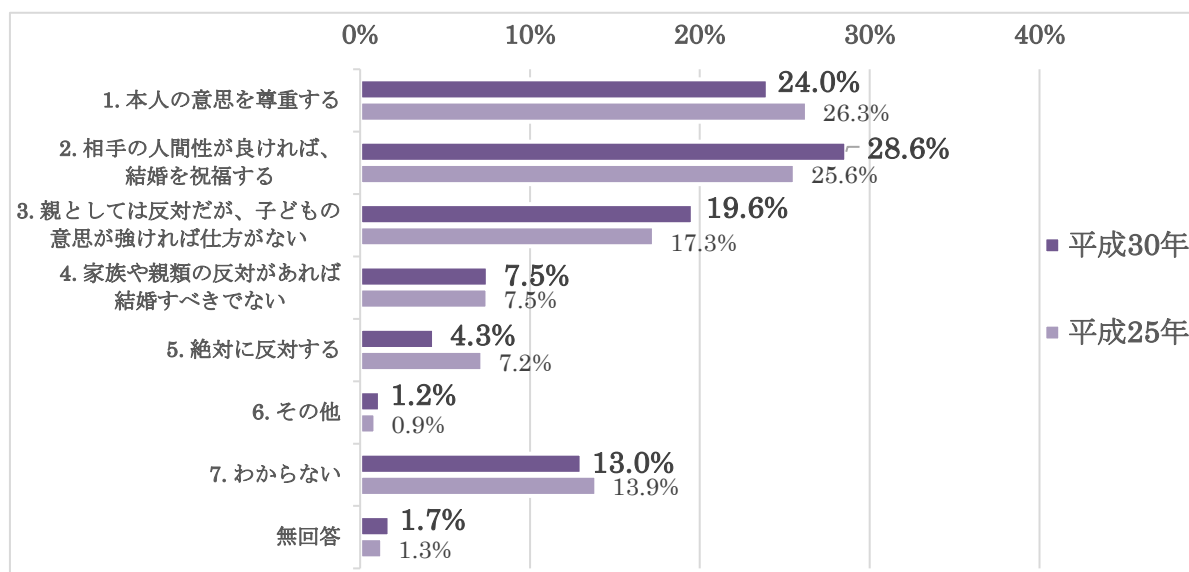


部落差別等の同和問題に関し、差別をすることに対して、どう思うかについて、「1. まちがいだ」が 48.3%であるのに対し、「仕方がない」と回答した人は 29.2%（「2. ある程度は仕方がない」25.1%、「3. 仕方がない」4.1%）であった。今回調査では「特に差別を受けていないと思う」を削除し、「4. その他」を新設したことにより、回答項目が異なるため前回調査とは一概に比較できないが、「1. まちがいだ」については 9.5pt 増加、「2. ある程度は仕方がない」については 7.7pt 増加している。

問 3-8 もし、あなたのお子さんが、被差別部落の人と結婚したいと言った場合、あなたはどうされますか。(〇は1つ)

回答者数 (N=1,450)

回答項目	合計 (人)	割合	
		今回	前回
1. 本人の意思を尊重する	348	24.0%	26.3%
2. 相手の人間性が良ければ、結婚を祝福する	415	28.6%	25.6%
3. 親としては反対だが、子どもの意思が強ければ仕方がない	284	19.6%	17.3%
4. 家族や親類の反対があれば結婚すべきでない	109	7.5%	7.5%
5. 絶対に反対する	63	4.3%	7.2%
6. その他	17	1.2%	0.9%
7. わからない	189	13.0%	13.9%
無回答	25	1.7%	1.3%

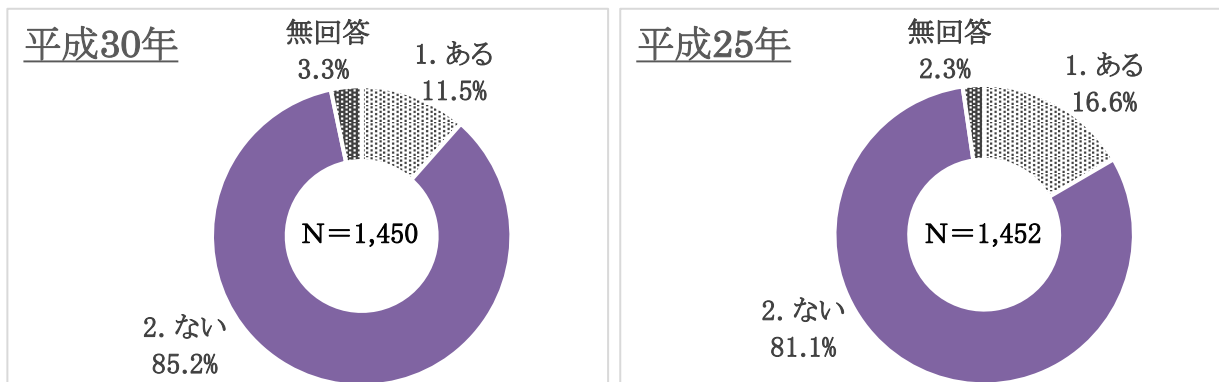


自分の子どもが被差別部落の人と結婚したいと言った場合の対応について、「2. 相手の人間性が良ければ、結婚を祝福する」が 28.6%で最も多く、2位は「1. 本人の意思を尊重する」で24.0%、3位は「3. 親としては反対だが、子どもの意思が強ければ仕方がない」で19.6%であり、積極的か消極的かの違いはあるが、「結婚に賛成する」と回答した人が 72.2%であった。一方、「結婚に反対する」と回答した人は 11.8%（「4. 家族や親類の反対があれば結婚すべきでない」7.5%、「5. 絶対に反対する」4.3%）であり、「7. わからない」と回答した人は 13.0%であった。前回調査との比較では、「2. 相手の人間性が良ければ、結婚を祝福する」が 3.0pt 増加し、「5. 絶対に反対する」が 2.9pt 減少した。

問 3-9 あなたは、最近(ここ5年ぐらいの間に)日常生活の中で、部落差別等の同和問題に関する差別的な発言や行動を直接見聞きしたことがありますか。(マスコミ等を介して間接的に見聞きした場合を除く。)(○は1つ)

回答者数 (N=1,450)

回答項目	合計 (人)	割合	
		今回	前回
1. ある	167	11.5%	16.6%
2. ない	1,235	85.2%	81.1%
無回答	48	3.3%	2.3%

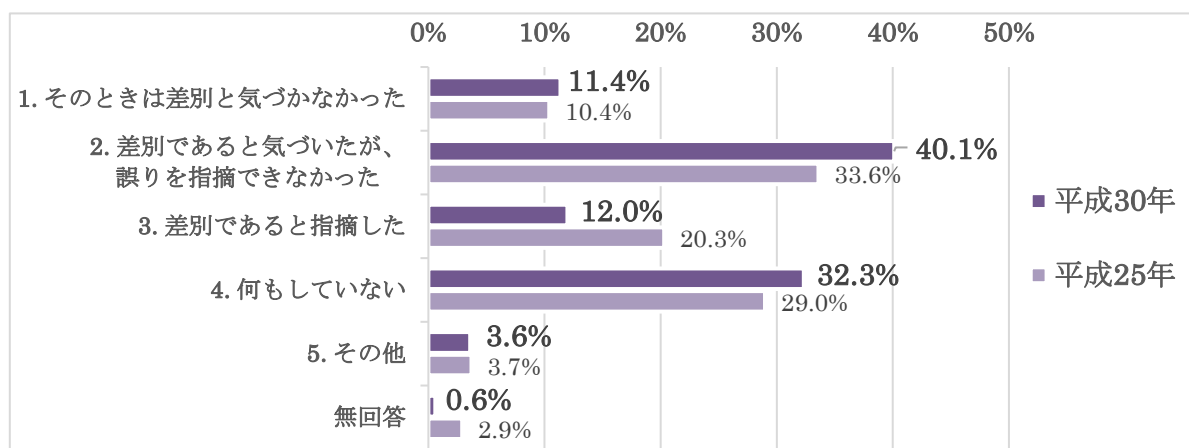


最近(ここ5年ぐらいの間に)日常生活の中で、部落差別等の同和問題に関する差別的な発言や行動を直接見聞きしたことがあるかについて、「1. ある」が 11.5%、「2. ない」が 85.2%であった。前回調査との比較では、「1. ある」が 5.1pt 減少し、「2. ない」が 4.1pt 増加した。

問 3-10 「問 3-9」で、「1. ある」と答えた方だけにお聞きします。日常生活の中で差別的な発言や行動を見聞きしたとき、あなたはどうしましたか。(〇は1つ)

回答者数 (N=167)

回答項目	合計 (人)	割合	
		今回	前回
1. そのときは差別と気づかなかった	19	11.4%	10.4%
2. 差別であると気づいたが、誤りを指摘できなかった	67	40.1%	33.6%
3. 差別であると指摘した	20	12.0%	20.3%
4. 何もしていない	54	32.3%	29.0%
5. その他	6	3.6%	3.7%
無回答	1	0.6%	2.9%



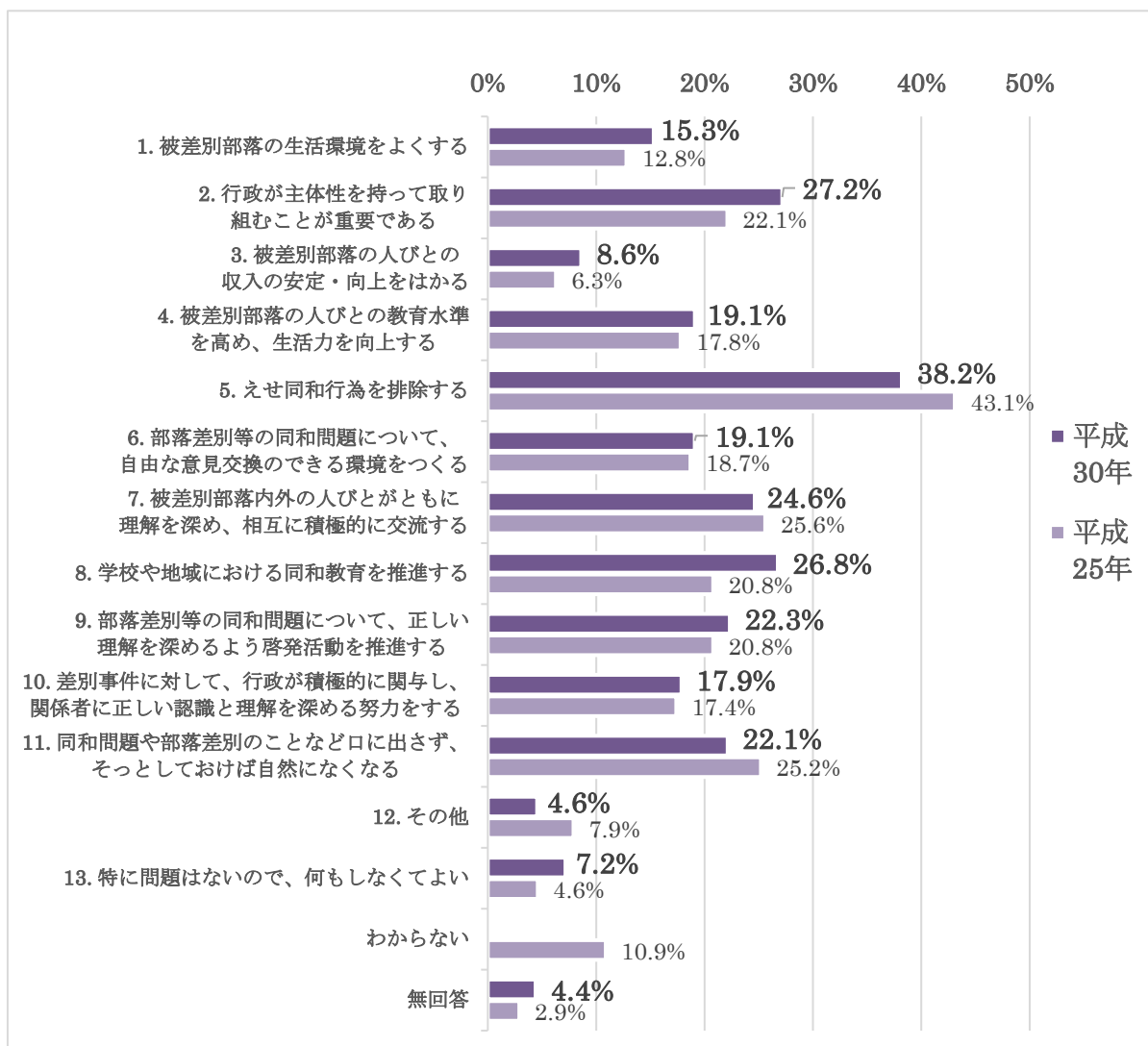
「問 3-9」で、「1. ある」と回答した 167 人に、日常生活の中で差別的な発言や行動を見聞きしたときの対応について尋ねたところ、「2. 差別であると気づいたが、誤りを指摘できなかった」が 40.1%と最も多く、次いで「4. 何もしていない」が 32.3%であり、「1. そのときは差別であると気づかなかった」の 11.4%を含めると、83.8%の人が差別的な言動を見聞きしてもその誤りを指摘しなかったのに対し、「3. 差別であると指摘した」と回答した人は 12.0%であった。前回調査との比較では、「2. 差別であると気づいたが、誤りを指摘できなかった」が 6.5pt 増加し、「3. 差別であると指摘した」が 8.3pt 減少した。



問 3-11 部落差別等の同和問題の解決のためにどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(〇は5つ以内)

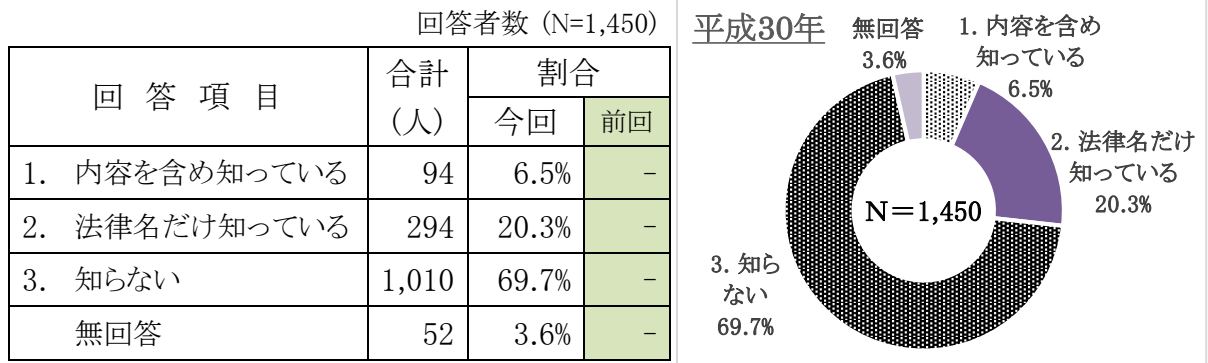
回答者数 (N=1,450)

回 答 項 目	合計 (人)	割合	
		今回	前回
1. 被差別部落の生活環境をよくする	222	15.3%	12.8%
2. 行政が主体性を持って取り組むことが重要である	394	27.2%	22.1%
3. 被差別部落の人びとの収入の安定・向上をはかる	125	8.6%	6.3%
4. 被差別部落の人びとの教育水準を高め、生活力を向上する	277	19.1%	17.8%
5. えせ同和行為を排除する	554	38.2%	43.1%
6. 部落差別等の同和問題について、自由な意見交換のできる環境をつくる	277	19.1%	18.7%
7. 被差別部落内外の人びとがともに理解を深め、相互に積極的に交流する	357	24.6%	25.6%
8. 学校や地域における同和教育を推進する	388	26.8%	20.8%
9. 部落差別等の同和問題について、正しい理解を深めるよう啓発活動を推進する	324	22.3%	20.8%
10. 差別事件に対して、行政が積極的に関与し、関係者に正しい認識と理解を深める努力をする	259	17.9%	17.4%
11. 同和問題や部落差別のことなど口に出さず、そっとしておけば自然になくなる	321	22.1%	25.2%
12. その他	66	4.6%	7.9%
13. 特に問題はないので、何もしなくてよい	104	7.2%	4.6%
わからない	-	-	10.9%
無回答	64	4.4%	2.9%



部落差別等の同和問題の解決のためにどのようなことが必要かについては、「5. えせ同和行為を排除する」が 38.2% (対前回比 4.9pt 減) で最も多く、2 位は「2. 行政が主体性を持って取り組むことが重要である」で 27.2% (対前回比 5.1pt 増)、3 位は「8. 学校や地域における同和教育を推進する」で 26.8% (対前回比 6.0pt 増)、4 位は「7. 被差別部落内外の人びとがともに理解を深め、相互に積極的に交流する」で 24.6% (対前回比 1.0pt 減)、5 位は「9. 部落差別等の同和問題について、正しい理解を深めるよう啓発活動を推進する」で 22.3% (対前回比 1.5pt 増) となっている。今回調査では「わからない」を削除したことにより、回答項目が異なるため前回調査とは一概に比較できないが、最も増加したのが「8. 学校や地域における同和教育を推進する」で 6.0pt 増、次いで「2. 行政が主体性を持って取り組むことが重要である」が 5.1pt 増、最も減少したのが「5. えせ同和行為を排除する」で 4.9pt 減、次いで「11. 同和問題や部落差別のことなど口に出さず、そっとしておけば自然になくなる」が 3.1pt 減となっている。

問 3-12 平成28年12月に、今もなお部落差別が存在するとともに、情報化の進展に伴ってその状況に変化が生じていることを踏まえ、部落差別は決して許されないものであるとの認識のもとに、部落差別のない社会の実現をめざす「部落差別解消推進法(部落差別の解消の推進に関する法律)」が施行されました。あなたは、この法律についてご存知ですか。(○は1つ)



部落差別解消推進法の認知について尋ねたところ、「3.知らない」と回答した人が69.7%であったのに対し、「知っている」と回答した人は26.8%（「1.内容を含め知っている」6.5%、「2.法律名だけ知っている」20.3%）であり、約7割の人が法律名を知らないことが確認された。